

船舶事故調査報告書

平成29年8月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	平成29年5月9日 09時00分ごろ
発生場所	岩手県洋野町種市漁港東方沖 種市港沖防波堤灯台から真方位088° 2.3海里付近 (概位 北緯40° 24.5′ 東経141° 46.4′)
事故の概要	プレジャーボート第三開成丸は、錨泊中、転覆した。
事故調査の経過	平成29年5月15日、主管調査官（仙台事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 第三開成丸、0.6トン
船舶番号、船舶所有者等	212-10006岩手、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	なし
損傷	船外機及び計器類が濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好 海象：潮汐 低潮期、波高 約30cm、海面水温 約9～12℃
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、船尾から錨の代用として重さ約5～6kgの石の入った袋（以下「アンカー」という。）を投下して釣りを行っていた。</p> <p>本船は、船長が、海底にアンカーが根掛かりしたのを感じ、錨索を切断しようとしたもののナイフが見つからず、船外機を後進にかけて外そうとしたところ、右舷側に傾斜し、海水が舷側から流入して転覆した。</p> <p>船長は、海上に投げ出され、携帯電話が海水に浸かり、通報することができず、船底の上で救助を待っていたところ、付近を航行中の貨物船に救助された。</p> <p>本船は、和船型の船外機船で、GPSプロッター及び魚群探知機が設置されていた。</p> <p>船長は、暑くなってきたと感じて救命胴衣を脱いでおり、本事故時、救命胴衣を着用していなかった。</p> <p>本事故発生場所は、水深が約30mで、底質が岩である。</p>
分析	本船は、船尾からアンカーを投下して錨泊中、アンカーが海底に根掛かりした際、船長が船外機を後進にかけて外そうとしたことから、船体に横方向の張力が掛かって右舷側に傾斜し、海水が舷側から流入して転覆したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、船尾からアンカーを投下して錨泊中、アンカーが海底に根掛かりした際、船長が船外機を後進にかけて外そうとした

	<p>ため、船体に横方向の張力が掛かって右舷側に傾斜し、海水が舷側から流入して転覆したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 機関を使用して錨等の根掛かりを外す際は、出力及び船体の傾斜に留意すること。・ 錨泊する際には、岩や石のある場所を避けること。・ 暴露甲板上では、暑いときでも救命胴衣等の着用を努めるとともに、適切な着用を心掛けること。・ 緊急時の連絡手段を確保するため、防水型の携帯電話又は防水パックに入れた携帯電話を持参しておくことが望ましい。